

2023年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年8月12日

上場会社名 株式会社カクヤスグループ 上場取引所 東
 コード番号 7686 URL <https://www.kakuyasu-group.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 田島 安希彦
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 前垣内 洋行 TEL 03 (5959) 3088
 四半期報告書提出予定日 2022年8月12日 配当支払開始予定日 -
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第1四半期の連結業績（2022年4月1日～2022年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第1四半期	26,541	42.7	△186	-	△186	-	△150	-
2022年3月期第1四半期	18,598	10.8	△1,307	-	△1,126	-	△709	-

(注) 包括利益 2023年3月期第1四半期 △125百万円 (-%) 2022年3月期第1四半期 △709百万円 (-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第1四半期	△16.14	-
2022年3月期第1四半期	△85.03	-

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため記載をしております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第1四半期	30,879	2,095	6.8
2022年3月期	28,541	2,307	8.1

(参考) 自己資本 2023年3月期第1四半期 2,095百万円 2022年3月期 2,307百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	-	10.00	-	10.00	20.00
2023年3月期	-	-	-	-	-
2023年3月期（予想）	-	-	-	-	-

(注) 1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無
 2. 配当予想につきましては、現時点では未定とさせていただきます。

3. 2023年3月期の連結業績予想（2022年4月1日～2023年3月31日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期（累計）	57,688	56.3	△201	-	△243	-	△258	-	△27.78
通期	120,741	41.2	906	-	827	-	592	-	63.63

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年3月期1Q	9,322,100株	2022年3月期	9,312,200株
② 期末自己株式数	2023年3月期1Q	44株	2022年3月期	44株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年3月期1Q	9,318,441株	2022年3月期1Q	8,342,944株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

（1）経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間（2022年4月1日から2022年6月30日）におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症に対する各種政策やワクチン接種普及等により一時持ち直しの動きがみられたものの、新たな変異株による急激な感染拡大や、ウクライナ情勢の影響による資源価格の高騰や歴史的な円安の進行によって、物価上昇圧力が高まり個人消費の低迷が懸念されるなど依然として先行きは不透明な状況が続いております。

当社グループが事業活動の中心としております酒類食品流通業界におきましても、新型コロナウイルス感染対策による飲食店等での営業時間の短縮や、滞在時間の制限など各行政機関による要請は全面的に解除されたものの、物価高騰によるコスト上昇や労働需要のひっ迫により、業界を取り巻く環境は引き続き厳しさを増しております。また、新たな生活様式に対応するライフスタイルの変化は、フードデリバリーサービス、ネットショッピング等の家庭内需要を高めており、当社グループを取り巻く経営環境を著しく変化させております。

このような状況のなか、当社グループは「お客様のご要望になんでも応えたい」という基本コンセプトのもと、従業員の徹底した感染防止策に加えて、配達業務を行う従業員向けに定期的な抗原定性検査を実施し、お客様が安心・安全に利用できるように努めております。

当社中核会社の株式会社カクヤスにおいては、個人飲食店市場の需要を徹底的に取り込むべく、効率的な物流体制を目指すべく三層物流（注1）を推し進め、展開エリアでの配送密度を高める事で、市場のさらなる浸透を図っております。また同物流体制の展開は、各店舗の在庫から業務商材が減ることで新たな品ぞろえ強化の機会となっており、家庭用においても酒類以外のさらなる商品の充実を図っております。さらにグループ全体では受注間口を広げるための外部の即時配達サービス（クイックコマース）との連携を進めるとともに、九州地区での「なんでも酒やカクヤス」ブランドでの初進出により、一層の認知獲得・利用促進を促すなど各施策に取り組み、業績の回復を図ってまいりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間における当社グループの経営成績は、売上高26,541百万円（前年同期比42.7%増）、営業損失186百万円（前年同期は営業損失1,307百万円）、経常損失186百万円（前年同期は経常損失1,126百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失150百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失709百万円）となりました。

売上区分別の売上状況につきましては、売上構成比が「業務用」65.5%、「宅配」18.7%、「POS（注2）」14.5%、「卸その他」1.3%となりました。

「業務用」の売上高は、17,375百万円（前年同期比99.1%増）となりました。新型コロナウイルス感染防止対策にともなう緊急事態宣言やまん延防止等重点措置による経済活動への抑制が解除され、酒類を提供する飲食店等も通常営業に戻ったことで、当社グループへの注文量も大幅な増加となりました。また、平年より早い梅雨明けや猛暑の影響などもありビアガーデン等外飲み需要の増加がみられ、顧客数・客単価ともに前年同期を上回りました。

「宅配」の売上高は、4,951百万円（前年同期比4.3%減）となりました。コロナ禍におけるデリバリー需要を取り込みネットショッピングの会員数は好調に推移しているものの、前年が緊急事態宣言下で家庭内の家飲み消費が高まっていたこともあり、顧客数は前年同期を下回りました。客単価は前年同期と同水準となっております。

「POS」の売上高は、3,849百万円（前年同期比12.8%減）となりました。前年が緊急事態宣言下で在宅勤務や外食等自粛の流れから店頭への来客が増加していたこともあり、顧客数は前年同期を下回りました。客単価は食材を中心にお店の品ぞろえを充実させたことで前年同期を上回りました。

「卸その他」の売上高は、365百万円（前年同期比28.5%増）となりました。

なお、当社グループは、酒類販売事業の単一セグメントであるため、セグメント情報は記載しておりません。

（注1）三層物流とは、家庭用向け宅配枠の最大化と業務用復調時の配達網整備を目的とした当社独自の物流体制です。第一層は業務用センターからのルート配送、第二層は業務用小型倉庫からの即日配送、第三層は家庭用店舗・小型倉庫からの即日配送を指します。

（注2）POSとは「Point of sale system」（販売時点情報管理システム）の略であり、お客様来店時のPOSレジ購入売上を指します。

（2）財政状態に関する説明

（資産）

当第1四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ2,337百万円増加し、30,879百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べ2,232百万円増加し、17,772百万円となりました。主な要因は受取手形及び売掛金の増加1,962百万円、未収入金の増加322百万円、商品の増加228百万円が、現金及び預金の減少459百万円を上回ったことによるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ105百万円増加し、13,106百万円となりました。主な要因は繰延税金資産の増加56百万円、投資有価証券の増加40百万円によるものであります。

（負債）

当第1四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べ2,550百万円増加し、28,784百万円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末に比べ2,844百万円増加し、24,068百万円となりました。主な要因は買掛金の増加2,961百万円によるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ293百万円減少し、4,715百万円となりました。主な要因は長期借入金の減少284百万円によるものであります。

（純資産）

当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ212百万円減少し、2,095百万円となりました。主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上による利益剰余金の減少150百万円によるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年3月期の連結業績予想につきましては、2022年5月12日に公表いたしました「2022年3月期 決算短信〔日本基準〕（連結）」の数値から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,748	2,289
受取手形及び売掛金	5,586	7,549
商品	4,274	4,503
未収入金	1,075	1,397
その他	1,895	2,087
貸倒引当金	△39	△54
流動資産合計	15,540	17,772
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,887	3,925
車両運搬具(純額)	1	1
工具、器具及び備品(純額)	267	286
土地	3,002	3,002
リース資産(純額)	1	0
建設仮勘定	—	5
有形固定資産合計	7,160	7,222
無形固定資産		
のれん	1,325	1,285
ソフトウェア	681	653
リース資産	39	29
その他	3	3
無形固定資産合計	2,050	1,972
投資その他の資産		
投資有価証券	293	333
繰延税金資産	1,210	1,267
敷金及び保証金	2,154	2,173
その他	256	229
貸倒引当金	△125	△92
投資その他の資産合計	3,789	3,911
固定資産合計	13,000	13,106
資産合計	28,541	30,879

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	11,393	14,355
短期借入金	7,645	7,119
リース債務	35	27
未払法人税等	105	21
賞与引当金	319	566
資産除去債務	3	20
その他	1,720	1,958
流動負債合計	21,224	24,068
固定負債		
長期借入金	4,080	3,795
リース債務	3	2
繰延税金負債	44	56
退職給付に係る負債	101	105
資産除去債務	739	725
その他	40	30
固定負債合計	5,009	4,715
負債合計	26,233	28,784
純資産の部		
株主資本		
資本金	38	40
資本剰余金	3,217	3,219
利益剰余金	△1,025	△1,268
自己株式	△0	△0
株主資本合計	2,229	1,992
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	77	103
その他の包括利益累計額合計	77	103
純資産合計	2,307	2,095
負債純資産合計	28,541	30,879

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
売上高	18,598	26,541
売上原価	14,616	21,016
売上総利益	3,982	5,525
販売費及び一般管理費	5,290	5,711
営業損失(△)	△1,307	△186
営業外収益		
助成金収入	203	4
その他	5	11
営業外収益合計	208	15
営業外費用		
支払利息	12	14
株式交付費	9	—
その他	5	1
営業外費用合計	27	16
経常損失(△)	△1,126	△186
特別利益		
投資有価証券売却益	15	—
特別利益合計	15	—
税金等調整前四半期純損失(△)	△1,110	△186
法人税、住民税及び事業税	13	21
法人税等調整額	△414	△57
法人税等合計	△401	△36
四半期純損失(△)	△709	△150
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△709	△150

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
四半期純損失(△)	△709	△150
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△0	25
その他の包括利益合計	△0	25
四半期包括利益	△709	△125
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△709	△125
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。